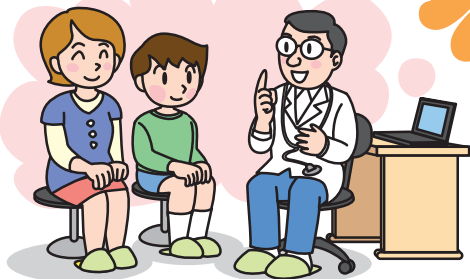


悩まなくてもだいじょうぶ

# 知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会  
代表 園部まり子



イラスト／清水直子

第27回

## 情報を正しく判断する力

### ✿ 寄り添う医療を

期待したいけれど…

「母の会」として、アトピー性皮膚炎で小児病院の専門診療科であるアレルギー科を受診している子ども

の保護者にアンケート調査を行なったことがあります。回答者21人という小さな調査でしたが、21人全員が治療に「大変満足している」と答え、その理由について回答した19人のうち17人が「親子でよく眠れるようになった」と答えるなど、安心して受診している様子うかがえました。

このアンケートでは「スキンケアの方法、疑問に適切なアドバイスを受けられ精神的にも楽になった」「先生がじっくりと話を聞いてくれる、話してもいいんだという雰囲気う

れしかった」「細かく説明してくれたのは初めて。話を聞いて納得して実践している」などという声も寄せられ、患児や家族の気持ちに寄り添った医療が提供されていることが伝わってきました。

一方、「母の会」に寄せられる相談には、全く逆のケースもたくさんあります。行く先々の医療機関で「なぜこんなになるまでほっつておいたのか」と責めるように言われ、医師に「皮膚を見せて」と言われるたびに、子どもが怯えるようになってしまった。あるいは「たいしたことはない。もっと酷い人はたくさんいる」「掻かせるから悪くなる」などと言われたことで、子どもが医師に心を閉ざし、治療に取り組みなくなったケースもありました。



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行なっている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

背景には、患者の側にある誤解に基づくステロイド不信・医療不信や、忙しさからくる医師の側の説明不足・軟膏の塗り方などの指導不足など様々な要因があると思います。残念ながらこれが医療の現状です。

### ✿ アレルギー協会などから正しい情報を

ただ子どもたちや保護者にとって、痒くて夜も眠れない生活が続くことほど辛いものはありません。そんな時、「母の会」は「患者も賢く」と話しています。適切な治療とは、軟膏はどれくらいどの量をどう塗るのかなどについて、例えば日本アレルギー協会のHPなどから正しい情報を得て判断できる、これからはそんな力が患者にも必要だと思っています。